

I 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		現状値	令和3年度実施状況	今後の取組
デマンド交通の利便性の向上				
No.1	デマンド交通ひめさゆりの全日運行 【中間目標値:80,000人、最終目標値:83,000人】	デマンド交通利用者数 72,698人（平成28年度）	58,218人	前年度からは横ばいとなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前の令和元年度と比較して2割程度減少しているため、そうした影響を加味しつつ、No.5のほか更なる取組を通じて利用促進を図る。
No.2	多用者に対する負担軽減策の検討	—	負担軽減策の最善解を複数乗車の推進と捉え、複数乗車を推進していくための予約受付システム（アプリ）について民間事業者の情報収集を行った。	有利な財源を活用できるよう、デマンド交通事業者とともに引き続き検討を行う。
No.3	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（H27.10～H28.9）	継続運行 44,301人（R2.10～R3.9）	前年度からは約1割増となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響が出る前と比較すると、2割近くの大きな減少となっている。既存の東三条駅から須頃地区までの路線バス（大学・専門学校前）を縮小し、循環バスぐるっとさん「燕三条ライン」を新規運行することで、事業の効率化と利用促進を図る。
No.4	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値:1地区、最終目標値:2地区】	1地区でコミュニティバスを運行	自治会からの照会はなかった。	運転手の確保と運行費（ガソリン代等）の確保が困難との理由で実現に至らないことが過去にあった。当協議会としては、今後も地域のコミュニティバス導入支援に努めていく。
No.5	デマンド交通利用促進に向けた出張講座の実施	—	5か所で実施	デマンド交通やおでかけバスを知らない方もいることから、新型コロナウイルス発生の状況を踏まえつつ、開催可能な団体に対しては引き続き事務局が説明会に赴く周知に努める。
高校生のバス等利便性の向上				
No.6	循環バスぐるっとさんの一部コースの見直し等の検討	循環バス利用者数 31,708人（平成28年度）	継続運行 26,877人	令和4年4月から三高ライナーを経路及び時刻変更並びに復路新設、名称変更を行い、県央工業高校ほか帰路の高校生の利用促進を図る。 また、令和4年10月からより効率的な運行になるよう路線の新規設
No.7	高校生通学ライナーバスの利用促進 【中間目標値:6,050人、最終目標値:6,050人】	高校生通学ライナーバス利用者数 6,062人（平成28年度）	市内全高校生及び周辺の大崎学園及び下田中学校卒業生にチラシを配布した。 利用者数：6,763人	現運行の更なる利用促進を図るため、通学でバスを利用する機会の多い市内高校在学学生にチラシを配布するなど周知に努める。
No.8	バス待合環境の整備	—	デジタル時刻表の設置や広告付き待合環境の整備の推進について民間事業者の情報収集を行った。	有利な財源を活用できるよう引き続き検討を行う。
No.9	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	—	JRへ要望	引き続き要望を行う。

II まちづくりのエリアを意識した外出で利用される公共交通の構築				
イベント等で利用しやすい交通体系の整備				
No.10	デマンド交通おでかけバス購入拡大 【中間目標値:350人、最終目標値:500人】	230人（平成28年度）	252人	令和3年度は、運転免許証返納時に44人に対しておでかけバスを無料交付した。今後も引き続き、更なる周知を図る。
No.11	デマンド交通おでかけバスの協賛店の拡大 【中間目標値:85店舗、最終目標値:100店舗】	70店舗（平成28年度）	引き続き募集を行ったものの、拡大にはつながらなかった。 61店舗	No.10の取組を通じておでかけバスの利用が進み、それを受けて協賛店を拡大できるよう引き続き協賛店募集を依頼する。
III 観光における二次交通の充実				
観光拠点に向けた交通機能の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	路線バス利用者数 70,510人（平成28年度）	バス事業者と、No.3の今後の取組の実現に係る協議を行った。	引き続き、費用面と利用状況を軸に見直しを検討する。
No.13	デマンド交通を活用した観光企画の検討 【中間目標値:56か所、最終目標値:60か所】	観光スポットに設置するデマンド交通停留所数 52か所（平成29年度）	工場の祭典WEB配信のため、実施できなかった。	新型コロナウイルス感染症の影響により、工場の祭典が規模を縮小して開催されたため、実施できなかった。通常開催になった場合に、再度臨時停留所を設置できるよう検討を進める。
No.14	八十里越開通後の只見方面の運行の検討	—	運行の検討に向けた事務的なスケジュールを立案した。	時機を見て只見町側との話し合いを行えるよう準備する。